

はじめに

本書は、筆者が薬剤師の医療貢献の道を探るために、薬剤師医療に疑問を抱き、大いに悩み苦しんだ末に導き出したさまざまな想いや考えを書き綴ったエッセイです。薬剤師の方々をはじめ、これから薬剤師を目指す高校生、薬学部の学生・教員、さらに一般の方々にも読んでほしいと思っております。なぜならば、薬剤師医療の発展はすべての方々に大きな影響を与えることになると思うからです。

薬剤師は職務を一生懸命に全うすればするほど、己の悩みや苦しみの本質が見えてくると思います。この本質を知ることが、薬物治療において“患者の苦しみを抜いて楽を与える（抜苦与楽）”臨床能力に長けた薬剤師を生み出すきっかけになると堅く信じています。

筆者は日本の薬学教育にフィジカルアセスメント技術導入の必要性を最初に全国発信しました。同時に、フィジカルアセスメントを行うための高機能シミュレータの必要性も最初に訴えました。本書を通し、フィジカルアセスメントの技術力が生み出す、薬剤師のさらなる無限の可能性について気づいていただければ幸いです。

薬学6年制教育は、他の医療系学部教育とは比べものにならないほどの大改革の時期を迎えています。この大改革の成功のための一助になればという想いも本書に込めました。

本書はまじめな内容が大半をしめますが、笑える話題も盛り込んであるので、気楽に読み進んで下さい。

本書の執筆にあたり、多大なご協力を頂いた講談社サイエンティフィック国友奈緒美氏に心より感謝致します。

2013年2月

高村徳人